

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783

新年
謹賀

感謝



平和



2015年干支「未」（新潟護国神社の巨大絵馬）

目次

- ◆年頭の御挨拶 会長 今井 長司 ……(2)
- ◆優秀畜産表彰受賞者の決定 ……(3)
～優秀賞 有限会社花田養豚場 奨励賞 涌井善雄～
- ◆畜産経営セミナー・優秀畜産表彰会開催案内 ……(3)
- ◆口蹄疫の防疫対策を再確認！ ……(4)
～生産者段階の防疫演習を実施～
- ◆安心農場を新たに15農場認定！ ……(4)
～畜産安心ブランド認定委員会を開催～
- ◆高病原性鳥インフルエンザ、PEDの発生防止対策を万全に！ ……(5)
- ◆めおとファームが農場HACCP推進農場に指定！ ……(5)
- ◆畜産安心ブランド生産農場認定証交付式・交流会案内 ……(5)
- ◆畜産共進会への褒賞授与 ……(6)
- ◆にいがた和牛販促資材に「ニーモ」が登場！ ……(6)
～にいがた和牛推進協議会からのお知らせ～
- ◆声のコーナー ……(7)
「おいしい話」
酪農経営：加茂市 今井 俊貴
「持続した経営をしていくために」
新潟県農業大学校畜産経営科：小野塚 至
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……(8)
糸魚川市：(有) 渡辺鶏園
- ◆畜産物市況 ……(8)
- ◆編集後記 ……(8)

年頭のご挨拶



公益社団法人新潟県畜産協会
会長 今井 長司

新年明けましておめでとうございます。

日ごろ、皆様方には当協会の業務推進に格別のご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。平成27年という新しい年を迎えるにあたり、一言年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、関東甲信地方での記録的な大雪、広島県北部での土砂災害、御嶽山の噴火、長野県北部での地震などの自然災害により農業でも大きな被害が生じ、被災された方々に改めてお見舞いを申し上げます。

経済面では4月に消費税率の8%への引き上げが実施されたことから、その後の景気回復は減速傾向となり、加えて12月には7年ぶりに1ドル120円台の円安となり、配合飼料原料をはじめとする生産資材の価格高が続く状況となっております。

また、日豪経済連携協定（EPA）が本年1月15日に発効し、牛肉関税が8%（冷凍牛肉）引き下げられるとともに、環太平洋経済連携協定（TPP）についても予断を許さない状況が続いているため、先行き不安などを理由とする畜産経営体の減少が懸念されるところであります。

このような状況の中、農林水産省の平成27年度予算では畜産生産基盤の強化を政策目標に、畜産経営体や地域の関係者が連携し、地域ぐ

るみで高収益型の畜産を実現する「畜産クラスター」事業が主要な事業と位置づけられております。

一方、7年ぶりに発生が確認された豚流行性下痢が4月から本県を含め全国38道県に拡大し、肉豚出荷頭数が減少する事態となりましたが、当協会では緊急対策事業を発動し、と畜場等に対する消毒薬の配付を行い、沈静化に向けた支援をしてまいりました。

さらには、昨年末に宮崎県、山口県で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されるなど家畜衛生対策に万全を期すことがより重要な状況となっております。

畜産経営においては、畜産物の取引価格が前年を上回り堅調に推移しているものの、配合飼料価格が本年1月からトン当たり2,550円（全国全畜種総平均）値上げされるなど依然として厳しい経営環境にあります。

当協会では、これらの情勢を踏まえ、行政と連携して所得向上対策を始め、価格安定対策、家畜衛生対策等に職員一丸となって取り組んでまいりますので、一層のご支援をお願いいたします。

最後に、畜産経営者、会員の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

優秀畜産表彰受賞者の決定

平成26年11月26日に開催した平成26年度優秀畜産表彰会審査委員会の結果、十日町市の有限会社花田養豚場（養豚一貫経営）が優秀賞、上越市の涌井善雄氏（黒毛和種繁殖経営）が奨励賞に決定しましたので、主な取り組み内容等を以下のとおり紹介します。

優秀賞

養豚一貫経営 有限会社 花田養豚場

後継者がいないため廃業する経営が多い中で、養豚に対して意欲を持つ創業家以外の第三者の若者が経営を継承し養豚業を継続している経営であり、担い手・後継者不足対策の参考とすべき経営です。

- 代表取締役の田中真氏は養豚農家の出身ではないが、創業家の長男と幼なじみであったことが縁で平成9年に入社、13年に農場長に就任した。
- 創業者は、長男が他産業に就職しており、養豚業を継がないことが決定していたことから廃業も考えたが、養豚業を誰かに託したい気持ちが強く、従業員の田中氏に経営継承について打診した結果、田中氏は引き継ぐ決心をして平成23年に代表取締役に就任、現在に至っている。
- 繁殖記録等をパソコンで管理しそのデータを活用している。見落としがちになりやすい豚の異動状況や健康状態等が正確に記録されることで、飼養管理状況が的確に把握でき、それぞれの処置や対応が迅速に行われ、特に繁殖成績の改善につながっている。
- コミュニケーションなどを通じた仕事への意欲向上や信頼関係の構築など、創業者が築いた従業員教育の伝統をしっかりと継承し、従業員育成に取り組んでいる。また、妻有グループの事務責任者として中核的な存在となっており、当該農場の従業員のみならず、地域全体の養豚従事者のスキルアップに取り組んでいる。



定期的に行われる事務所での勉強会

奨励賞

黒毛和種繁殖経営 涌井 善雄

育種価の高い母牛をそろえることにより、上越家畜市場では優良子牛の出荷で毎回上位の価格を維持しています。畜産と水稻の複合経営であり、耕畜連携にも積極的に取り組んでいる経営です。

- 優良雌牛の導入と交雑種雌牛を利用した受精卵移植による黒毛和種優良子牛の生産に取り組んでおり、生産した子牛は「にいがた和牛」の素牛として上越家畜市場に出荷している。
- 上越家畜市場では、優良子牛の出荷で毎回上位の価格を維持しており、新潟県子牛共進会では平成25年、26年と2年連続で最優秀賞を受賞している。
- 牧草地、水田転作の他、遊休地の野草を収穫し自給粗飼料確保に努めており、加えて、近隣の水稻経営が生産する稲WCSを利用することにより、必要粗飼料を地域内でまかなっている。



涌井善雄さん

畜産経営セミナー及び優秀畜産表彰会 ～ 開催のお知らせ ～

畜産経営の更なる発展に資するため、「畜産経営セミナー」を開催します。多数のご参加をお待ちしております。

○ 日時 2月13日（金）13:30～16:00

○ 場所 JA新潟ビル10階 大会議室

○ 内容 講演、情報提供及び優秀畜産表彰会

※詳細は当協会ホームページをご覧ください。

口蹄疫の防疫対策を再確認！ ～ 生産者段階の防疫演習を実施 ～

口蹄疫等の悪性家畜伝染病に対しては、国家防疫の観点から家畜保健衛生所等を中心とした防疫措置の強化が図られてきていますが、この国家防疫と整合性のある強化が不可欠な自衛防疫については、生産者自らによる地域ぐるみでの初動防疫活動を関係者と共通認識の下で取り組むことが重要となります。

当協会では、昨年度、県内3か所で実施し、好評であり、本年度も3か所で実施しました。

内容は、地域の生産者を対象とし、防疫の3原則「発生予防」、「早期発見・通報」及び「迅速・的確な初動」を机上演習で確認するとともに、実際の資材を用いて、消毒液の作成や踏み込み消毒槽の設置と車両消毒等の実地演習を行いました。

第1回目は、11月5日、長岡市の中央家畜市場において、家畜商組合員等32名の参加で、中越家畜保健衛生所職員に講師をお願いして実施しました。

第2回目は、11月25日、酪農にいがた阿賀野支所で、同組合員等31名の参加で、下越家畜保健衛生所職員を講師に実施しました。

第3回目は、11月27日、新潟みらい農業協同組合横越支店において、同組合酪農部会員等16名の参加で、中央家畜保健衛生所職員を講師に実施しました。

出席した生産者は、平成22年に宮崎県で発生した口蹄疫の伝播の速さに改めて脅威を感じ、発生農場では72時間以内に防疫措置を完了させる迅速な初動防疫の重要性と防疫演習参加の重要性を再認識されていました。また、病原体の侵入防止には飼養衛生管理基準に基づく基本的な対策の励行が肝心と、帰宅後は早速、配付した演習資材を活用して消石灰と逆性石けん消毒薬の踏み込み消毒槽を設置するとのことでした。



酪農にいがた阿賀野支所における防疫演習 (H26.11.25)

安心農場を新たに15農場認定！ ～ 畜産安心ブランド認定委員会を開催 ～

当協会は、県畜産課の事業と連携し、安全・安心な県産畜産物の供給を促進するためにHACCPの考え方に基づく衛生管理手法を導入した農場を、毎年「畜産安心ブランド生産農場」として認定してきました。

平成15年度のクリーンポーク(豚)認定からスタートし、牛、鶏も加えて本年度で12年目です。

本年度は、管理獣医師及び家畜保健衛生所等の指導により飼養衛生管理プログラムや各種記録簿を整備した乳用牛12農場、肉用牛1農場、豚1農場、採卵鶏1農場、計15農場から申請がありました。

認定申請を家畜保健衛生所経由で受理した後、現地調査を実施、5日間にわたり、認定委員会の楠原征治委員長から各農場の飼養衛生管理状況を実際にチェックしていただきました。

厳しい畜産情勢が続いていますが、各農場は生産性向上と生産物の品質向上に努力されており、また、何よりも、後継者が意欲的に取り組んでいる農場が多く、今後の発展が期待されます。

12月18日、新潟県自治会館において、学識経験者、消費者代表、流通関係者、生産者団体及び県機関で構成されている畜産安心ブランド認定委員会において、申請農場の飼養衛生管理実施状況等について審査をいただいた結果、全ての農場が認定基準に適合していると判断されました。

この結果、下表のとおり、認定農場数は248戸となり、県内畜産農家の46%が安心農場になりました。関係者の皆様には、認定農場の信頼確保のため、今後ともご指導をよろしくお願いします。

認定農場数と認定率 (平成26年12月18日現在)

| 畜種 | 乳用牛 | 肉用牛 | 豚 | 採卵鶏 | 肉用鶏 | 合計 |
|-----|------|------|------|------|------|------|
| 農場数 | 75 | 73 | 56 | 24 | 20 | 248 |
| (%) | (32) | (57) | (46) | (62) | (87) | (46) |



楠原委員長による現地調査 (H26.12.10)

高病原性鳥インフルエンザ、豚流行性下痢（PED）の発生防止対策を万全に！

平成26年11月から死亡野鳥からのA型インフルエンザウイルスの検査陽性事例が16件（8都県、鳥類11種、環境1検体）（平成26年12月末現在）と例年になく多く検出されています。このうち、高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N8亜型）が8例分離されています。

また、家禽での高病原性鳥インフルエンザの発生が3件あり（平成26年12月末現在）、いずれも肉用鶏で、宮崎県で平成26年12月16日、12月28日の2例、山口県で12月29日にそれぞれ発生し、いずれもH5N8亜型による感染でした。発生県での迅速な防疫対応で、継続発生はありません。

平成22年度に家禽で大発生した状況と今回の死亡野鳥からの分離例が似ているパターンです。

野鳥の鶏舎内の侵入防止対策等、日頃の飼養衛生

管理基準の遵守に努めましょう。

豚流行性下痢（PED）の発生が増加しています。

全国の発生状況は15都県53件（先々週比3県18農場増加）、発生頭数13,435頭（先々週比6,080頭）、死亡頭数1,091頭（先々週比289頭）（平成27年1月4日現在）と増加傾向です。

新潟県内では昨年末に2農場が再発し、継続発生1農場と合わせ、3農場です。

PED対策として母豚への2回ワクチン接種による初乳移行抗体による防御方法ですが、症状を明確に現さない肥育豚の存在もあるようです。

感染防御のため、基本の消毒方法を見直し、徹底した消毒を励行しましょう。

（新潟県農林水産部畜産課資料より）

めおとファームが農場HACCP推進農場に指定を受ける！

めおとファーム（斉藤道雄さん、斉藤栄毅さん・華子さん経営、新発田市）は当協会の認定事業である「畜産安心ブランド生産農場」のクリーンミルク農場として平成21年に認定されていました。

さらに、高度な衛生管理方式（HACCP方式）を取り入れるため、国の認証システムである「農場HACCP認証」を取得するため、平成25年度から取り組んでいました。

今回、その前段階である「農場HACCP推進農場」に平成26年12月25日に指定されました。本指定は新潟県第2号で、酪農経営では第1号です。



畜産安心ブランド生産農場認定証交付式及び交流会のご案内

本年度は15農場の新しい認定農場が誕生します。例年通り、認定証交付式と畜産安心ブランド生産農場の交流会を下記の通り開催します。参加をお待ちしています。

と き：平成27年2月25日（水）
午後1時30分から3時30分まで

ところ：全農にいがた県本部ビル・大会議室
新潟市西区山田2310番地10

講 演：「大学アイスで伝える畜産の素晴らしさと地域に根ざした畜産安心ブランド認証について」

講 師：新潟大学農学部村松ステーション
吉田 智佳子 助教 様



畜産共進会への褒賞授与

当協会では、本県の畜産振興に寄与するため、主に県下一円又は市町村の範囲以上を参加地域とする畜産共進会等において、優れた成績を取めた方に対し、賞状及び副賞を交付しております。

平成26年6月から11月までに9か所の共進会等で交付いたしました。結果は下記のとおりです。

賞状及び副賞を交付した共進会等

(開催日順、敬称略)

| 行事名 | 主催者 | 賞名 | 受賞者名 | 住所 |
|-----------------------------------|------------------------------|---------------------|---------------|------|
| 第40回 全佐渡ブラック アンド ホワイトショー | 佐渡 ホルスタイン改良 青年同志会 | 最高位賞 (未経産牛) | 藤原宏道 | 佐渡市 |
| 第21回 JA佐渡和牛 共進会 | 佐渡 農業協同組合 | 優等賞 (未経産牛) | 本多千代子 | 佐渡市 |
| | | 優等賞 (経産牛) | 梶井正弘 | |
| くびき肉牛枝肉 研究会 | えちご上越 農業協同組合 肉用牛部会 | 最優秀賞 | 荻谷耕治 | 上越市 |
| JA北越後 肉牛枝肉勉強会 | 北越後農協 繁殖肉牛 専門部会 | ベスト枝肉賞 | (農) 石山農産 | 新発田市 |
| 第14回 十日町農業協同 組合養豚枝肉 共進会 | 十日町 農業協同組合 養豚部会 | 最優秀賞 | (有) 姿農場 | 十日町市 |
| | | 優秀賞 | 平野清志 | 十日町市 |
| 平成26年度 新潟県子牛 共進会 | 全国 農業協同組合 連合会 新潟県本部 | 最優秀賞 (去勢の部) | 涌井善雄 | 上越市 |
| 第59回 新潟県肥育牛 求評共励会 | 全国 農業協同組合 連合会 新潟県本部 | 最優秀賞 | 河内松雄 | 胎内市 |
| | | 優秀賞(1席) | 佐藤忠男 | 村上市 |
| | | 優秀賞(2席) | 小野耕司 | 胎内市 |
| 第24回 肉用牛共進会 | 新潟県 家畜商協同 組合 | 優秀賞 (和牛の部) 1席 | (農) 遠藤ファーム | 胎内市 |
| | | 優秀賞 (和牛の部) 2席 | 荻谷耕治 | 上越市 |
| | | 優秀賞 (和牛の部) 3席 | 小澤栄一 | 南魚沼市 |
| 第43回 中之島地域 畜産共進会 | 中之島 地域畜産振興 協議会 | 最優秀賞 (肉用牛) | 田口正一 | 長岡市 |

にいがた和牛販促資材に「ニーモ」が登場 ～にいがた和牛推進協議会からのお知らせ～

にいがた和牛推進協議会では、一昨年、協議会設立10周年を迎えたことから、にいがた和牛のイメージアップにより一層の消費拡大を図るため、平成25年11月にイメージキャラクター「ニーモ」を制定しました。

協議会では、昨年、この「ニーモ」のパネルを制作し、10月に開催された「ふれあい畜産フェスタ」で出店した際にお披露目いたしました。

これまで、協議会会員、取扱指定店には下記の販売促進資材を提供し、消費者へのPRに活用いただいております。

この度、販売促進資材に「ニーモ」パネルを新たに追加しましたので、イベント開催時等に御活用頂きたいとお知らせいたします。



なお、パネルの大きさは横90cm、縦150cmで、屋内用、屋外用の2種類ありますので、協議会事務局（当協会総務課）までお問い合わせください。

にいがた和牛販売促進資材一覧表

| 区分 | 品名 | サイズ・在庫数等 |
|------|------------|-------------------------|
| 貸出 | のぼり（ポールなし） | W60×H180cm・95枚 |
| | 法被 | 50着 |
| | 帽子 | 17個 |
| | エプロン | 5枚 |
| | ニーモパネル | (新規追加) W90×H150cm・4枚 |
| 無償提供 | ポスター | W59×H84cm |
| | リーフレット | W10×H20.8cm |
| | 指定店ガイド | W10.5×H15cm |
| | 棚帯（4種類） | W35.5×H6cm ラミネート加工済 |

○貸出数は在庫状況により御要望にそえない場合があります。



酪農経営

加茂市上高柳

今井 俊貴



新潟県農業大学校

畜産経営科酪農専攻2年

小野塚 至



『おいしい話』

私の家では乳牛を30頭程度飼育しています。数はそれほど多くありませんが兼業で水稻も栽培しているので、時期となれば酪農家と稲作農家の二足のわらじを履かねばならず、いつも大忙しです。本来であればこの文章にはその乳牛について書くべきであると思いますが、今回はあえて和牛について書かせて頂きます。

ではなぜ和牛について書こうと思ったのか、ちょうど年末年始に和牛を食べたので、じゃあまだ記憶が新しいうちにせっかくだから書いておこうかなと思ったからです。あと肉が好きだからです。

和牛と言えば非常に高額であり、特にA5クラスとなるとなかなか食べる機会など無いものです。それでもやはり上質な和牛を口にしたときの「これだ!」という満足感は和牛じゃないとだめだと思います。

以前インターネットで、近年では海外向けに和牛の良さを知ってもらうためのセミナーが各国で行われているというニュースを見ました。海外では既に神戸牛がそれなりに広く認知されていて、来日した外国人は好んで食べに行くようです。そのニュースには和牛の輸出額の推移のグラフも載っていました。輸出額は年々増加傾向にあるようで、海外でも人気を博しているように思えます。

大学時代研修旅行でアメリカに行った際、カリフォルニアの大手牧場を見学しました。飼養方法は日本と大きく異なり、広大な土地をふんだんに利用して放牧していました。そこで出されたステーキも日本で高級とされる肉と違い脂肪分が少なく、ブ厚い力強い堅い肉でした。その旅行では一般家庭にも何日かホームステイしましたが、食事の度にやはり何度かブ厚いステーキが登場し「アメリカ人はブ厚い肉が好きなんだな」と思いました。

海外では関税や輸送費の関係でただでさえ高額な和牛がさらに高額な値段で販売されていて、口にできる機会など日本以上に無いようです。海外の人は日本人とは味覚が異なるので和牛独特の味とかをどう感じるかは分かりませんが、セミナーを通じて日本の和牛を多くの人に知ってもらうのはいいことだと思います。和牛はとても美味しいので是非日本国内だけでなく、全世界に羽ばたいて行って欲しいなと思います。

『持続した経営をしていくために』

私の家は飼養頭数50頭規模の酪農家で、飼料畑0.5haでWCSは9haです。現在、父、母、兄の3人で作業をしています。頭数が少ないので個体の能力を向上させるため育成、改良に力を入れていて、牛群検定・審査を受検し、より良い後継牛を作ろうと頑張っています。また、共進会には必ず出品し、昨年の中部共進会では上位入賞を果たしました。共進会への参加を始め、勉強会などへ積極的に参加している父は仲間と切磋琢磨し地域の酪農を盛り上げています。高校卒業後から家の手伝いを始めましたが、手伝いを始めてからそんな父親の姿をあらためて見ることで、私も酪農家になりたいと思い農業大学校へ進学しました。

農業大学校では人工授精師免許、農業機械の免許を取得しました。また、県内の複数の酪農家で研修し、実践的な知識や経営者としての考え方を学ぶことができました。

卒業後はすぐに就農する予定です。しかし今の経営規模では私が就農することで労働力が余剰になるため、近い将来増頭を行い、100頭規模まで拡大したいと考えています。資金面や技術面など様々な課題がある中で、一番の課題は飼料費の削減と考えています。現在、WCSを委託も含めて確保していますが、コスト低減のためにより多くの自給粗飼料を確保すべく、今後さらに面積拡大が必要です。面積を拡大していくためには地域の方々の理解が必要になります。父は、WCSの通年給餌を目指し、地域の稲作農家と協力して現在の面積まで拡大してきました。これまで父が行ってきた地域との連携を、後継者として自分も積極的に行わなければなりません。人との交流が苦手な自分にとって大きな課題ですが、酪農経営を行っていくため、努力しなければと考えています

あと数か月で就農となりますがやらなければならないことは多くあります。酪農家として持続した経営をしていくために、生産・経営技術の向上に努力していきたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

糸魚川市：(有) 渡辺鶏園

私は糸魚川市で4万5千羽規模の養鶏業を営んでおり、卵は地元スーパーや老人ホーム等の公共施設、新潟県総合生協に出荷しています。総合生協へ卵を出荷していることからクリーンエッグ生産農場認定に取り組み、平成17年に取得できました。

卵は遺伝子組み換えされていない飼料作物と収穫後に農薬散布されていない飼料で育てられた鶏から生産しており、総合生協には県産飼料用米を混合した飼料を給与した鶏の卵を出荷しています。

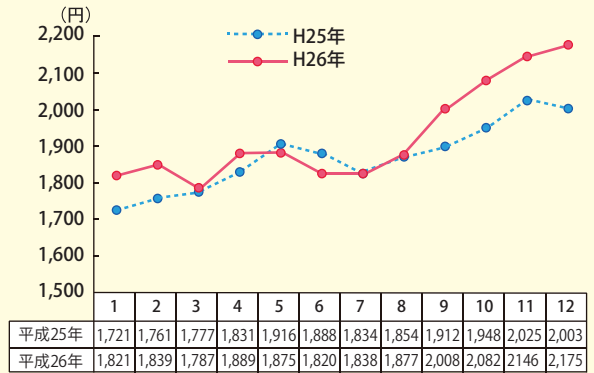
今までの経験から、養鶏業は卵価や飼料価格の変動が経営に大きく影響を与えることを痛切に感じ、また、自分の卵を多くの人に食べて欲しいという思いから、平成18年に洋菓子店「フェルエッグ」を市内に開店し妻がオーナーとして活躍しています。当初は卵をメインとしたプリンとシュークリームの限定販売でしたが、現在では焼き菓子も展開し、関東方面への販売も始めました。この6次産業化について、昨年、北陸農政局主催の男女共同参画優良事例表彰で「北陸農政局長賞」をいただきました。

今後は市内農業者、商業者、関係機関等で組織する「糸魚川なりわいネットワーク」等を通じて地元の農業者と連携し、地域食材を使った洋菓子研究・販売を進めていきます。

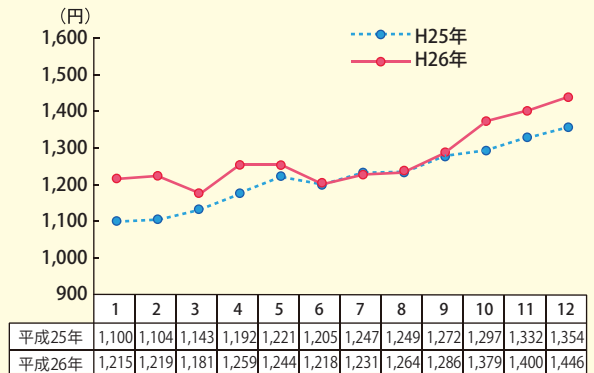


畜産物市況

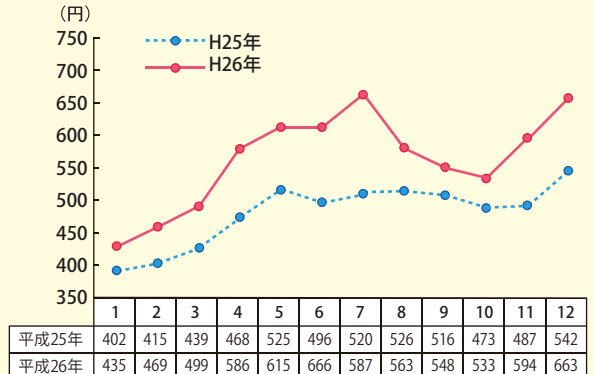
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・交雑種去勢B-3(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

「ごちそうさま」とは遠方まで食材を調達した人たちへ感謝を表す言葉だそうです。年末に、NHKの朝の連続小説「ごちそうさん」の総集編があり、主演の杏さんのごちそうさまの笑顔がとても素敵でした。

私たちの食べている食材、特に動物性蛋白の供給源となっている畜産物。牛乳、牛肉、豚肉、鶏肉、卵とどれも身近で、いつも手に入ると思っているものです。しかし、どの食材も家畜が生まれて、安全な畜産物となるのは、非常に多くの過程を経て、手間をかけて、何年もかけて、やっと食品として流通するものです。

今回、畜産安心ブランド生産農場認定巡回で、多くの農場にお邪魔しましたが、生産者の方々から、家畜を如何に健康に飼うかのポイントや秘訣やこだわり、種々の管理の大変さをお聞きました。生産者の方々の牛さんや豚さんの日々の健康管理に、ただ、ただ、感謝、感謝、ごちそうさまの笑顔で気持ちを表したいと思います。

美味しい料理は心を豊かにします。「ごちそうさま」で今年もにいがた畜産協会たより愛読者の皆様が笑顔で健康に過ごせますように！

(中林 記)